

いきもの記

Vol.157 2025.9.22

2年1組 千葉 美文
(科学研部生物化学班・鳥研究)

放っておくだけで立派な菜園の完成 雑草栽培のすゝめ

私は鳥野郎であるし、龍平先生やみんなからもそう思われている。だが、そんな私も他の生き物に興味がないわけではない。最近**は蟲班とカエル班のおかげで小さな生き物にも目が向くようになった。**ということで、鳥野郎であるはずの千葉が今回書くのは「雑草」である。読者諸君は雑草がお好きだろうか。好きな人がいると信じたいが、大抵の公園は雑草を刈り「雑草を根まで根絶！」なんて危険極まりない（個人の感想です）薬品のCMが流れるほど、世間の雑草に対する目は中々に厳しい。しかし、私は雑草を育てるのは面白いと断言しておく。私はここ数年、**家のベランダで雑草を生やして楽しんでいるのだ。**

最初に雑草菜園（以下：雑草園）の作り方を教えよう。用意するものは鉢とその辺の土だけで、作業は鉢に土を入れて雨と日光が当たるところに置くのみ。後は読者諸君の自由でそのまま土に含まれている雑草の種が生えてくるのを待つのもあり、鳥が来る環境を作ってフンと一緒に種を蒔いてもらうのもあり、自分で雑草の種を取ってくるのもありだ。

しかし、なぜわざわざ雑草なんて育てるのかと諸君は思うだろう。その理由は単純明快。**ただ「楽」で「面白い」からだ。**読者諸君がご存知の通り、雑草は放っていても生きていけるので**世話がいらないのだ。**家で飼っている猫2匹の世話にヒィヒィ言ってる私にはもってこいの生き物なのである。そして、**なぜ面白いのか。その答えは昭和天皇が教えてくださった。**私は日本史も好きなので「昭和天皇物語」という漫画を読んでいるのだが、その作中に何度か「雑草という草はない」という描写がある。昭和天皇は幼少期から**いきもの屋**であり、生物学者にもなった昭和天皇は、次のような言葉を残している。「**雑草という名の草はない。どんな植物でも、みな名前があって、それぞれ自分の好きな場所で生を営んでいる。人間の一方的な考え方でこれを雑草としてきめつけてしまうのはいけない**」と。そう、雑草もみんな名前があって面白い生態（個性）があるということなのだ。例えば私の雑草園には、アメリカヌホオズキというナス科の草が沢山生えている。こいつは私の雑草園初期以来のメンバーであり、最も存在感が大きい。しかし、**私はこいつの種を植えた覚えがないのだ。**そこでナスの花に似た花と紫色に熟した果実が目にとまる。「うまそうな見た目の実がある。こいつ鳥のフンで来たな」などと考察するのが楽しい（あくまで考察であって事実かは調べたがわからなかった）。そのほかにも綺麗な花を咲かせるのはカタバミ、上階から降ってきてそのまま成長する謎の多肉植物、いつの間にか消えていたエノコログサ、わざわざ種を持ってきて蒔いたのに全然生えてこないスミレなど実に多様だ。そして、それらが育っていくのを見るのは楽しい。世話をしないと成長が見られない園芸種と違って**何もしなくても創造主のような気分が味わえる。**

最後に、読者諸君にもぜひ雑草園を作ることをおすすめしたい。本当に冒頭に書いた通り鉢と土があればできる。安く済むので**夏休みの自由研究**などにもおすすめだ。私みたいな上級者（こんな簡単なものに上級者なんてあるのか）になると将来ヨモギを沢山生やせてカンタン（鳴く虫の女王）が生息できる環境を作るのも面白いなんて考えるようになる。読者諸君も**自分の好きなように雑草園で生態系を作ってみると何か発見があるかもしれない。**自然科学への入り口としてとても良いものになるだろう。



↑アメリカヌホオズキ ナス科の草だが、ブルーベリーを小さくしたような実になる。



↑ヒメツルソバ 本文を書き終わった直後に生えているのを発見した。